

オタク的コミュニケーションの悦楽

～メイドグラフィティ in 大阪日本橋（2）～

池田 太臣

（甲南女子大学人間科学部文化社会学科）

はじめに

本稿は、大阪市浪速区日本橋にある老舗メイド喫茶で、「メイド」として働いている女性たちのインタビュー報告の第2弾である。前回の報告¹では、6名のうち4名のインタビュー結果しか報告できなかった。今回は残りの2名について、インタビュー結果を紹介したい。

インタビューを行った6名のメイドは、全員、大阪市浪速区日本橋にあるAカフェで働いている（現在は辞めている者もいるが、インタビュー当時は、全員現役であった）。このAカフェは、2005年より続く、日本橋では“老舗”のメイド喫茶である。

1 インタビューについて

本インタビューは、2011年11月13日（17:30～18:25）に、Aカフェ近くの喫茶店にて行われた。インタビューは、2名同時に行われている。2名の年齢、社会的地位、Aカフェでのメイド歴は以下のとおりである。

Rさん…21歳、フリーター、Aカフェでのメイド歴半年

Pさん…19歳、大学生、Aカフェでのメイド歴1ヶ月

以下、インタビュー内容を、（1）Aカフェで働こうと思った動機、（2）オタク文化との接点、（3）Aカフェで働く楽しさ、（4）Aカフェで得たもの、（5）その他の5点に分けて紹介する。

彼女たちの発言は、読みやすいように、こちらで表現を修正したり、省略をしたりして、ある程度整えている。メイド発言中の〔〕は、池田の“あいづち”ないし質問である。一方の発言中の、他方の同席したメイドの発言は（）で囲ってある。その場合、アルファベットで発言者を記している。（笑い）は発言者の笑いを、（一同 笑い）は、2人のメイドと池田とも笑っている状態を指す。

2 Aカフェで働こうと思った動機

——そもそも、お二人がAカフェで働こうと思ったきっかけは何ですか？

R：私は、前の制服の時²、ロングの制服の時に、あれがかわいいと思ったので、まあ、生きてるうちに一回は、ちょっとかわいい制服を着て、働きたいなと思って。あと接客が好きなので、ですかね。

——たとえば、接客の仕事でもいろいろありますよね。メイド喫茶を選ばれたのは何故でしょうか。

R：そうですね。なんか、コミュニケーションがいっぱいとれるかなと思ったのと、ですかね〔それはお客さんとですかね〕はい〔そういうのはお好きですか〕はい、しゃべるの大好きなんで（笑い）〔そのしゃべりを活かして〕はい〔仕事に〕。

¹ 池田太臣「オタク女子の楽園～メイドグラフィティ in 大阪日本橋（1）」『女子学研究2』（女子学研究会編：2012, 76-90）

² Aカフェの制服は、これまで2回変わっている。ひとつ前、つまり2代目の制服は、茶色が基調でロングドレスであった。

—それは、何歳くらいのときですか？

R：二十歳？〔二十歳の時に？じゃあ、1回Aカフェに来られたわけですか〕いや、1回も行ってないです（笑い）。〔しかし、いま制服がかわいっておっしゃられてましたよね〕ホームページで見ました。〔は一、なるほど。メイド喫茶で働こうと思って制服をいろいろみて〕うんうん〔で、Aカフェに決められたと。余所の制服は〕ん？〔余所の制服は、見られましたか？〕余所の制服は、あのその、かわいすぎたんです。〔ロングがよかった？〕落ち着いている雰囲気かなと思って（P：うんうん）あまり、なんていうか萌え萌えビームとか苦手なんで。だから、もっと気軽な感じで、はい。〔その、萌えは苦手だけど、メイド喫茶で働きたい〕はい（笑い）（P：ちょっと大人の感じしますもんね）そうですね。オトナなメイド喫茶。気軽な感じで。

—メイド喫茶は、どこではじめて知られましたか、はじめて存在を知ったとき…

R：はじめて？存在？存在？物心ついたときですかね（P：えっ！）〔それはないでしょう〕（一同 笑い）〔だって、20年前ですよ！？〕20年前？〔1990年ですよ、ないと思いますよ〕そーですね（笑い）、えーと、中学生かな、中学生の時ですね。〔テレビでみられたかなんかですか〕はい、マンガかな？〔マンガ？〕マンガ？（笑い）マンガですね。〔どんなマンガですか〕なんやろ、『会長はメイド様』かな。わかんないですけど、たぶん。それとかみて〔なんとなく知っていたと〕はい、なんとなく〔そのときから、あこがれはあったんですか〕でも、働きたいなどは特に思っなくて、でもなんか、とりあえず受けてみようと思ったんです、面接を。そしたらもう、受かったという。〔Aカフェしか受けておられないですか〕あ、ほかの店も受けました〔あー、受けたんですね。なるほどなるほど〕はい〔で、Aカフェで採用と。でもせっかく旧制服が好きで入ったのに〕変わってしまいましたけど。

—Pさんのメイド喫茶で働こうと思ったきっかけを教えてください。

P：私、もとは、お客さんとして行くのが好きやったんですけど、友だちが、一番仲いい友だちがメイド喫茶で働き始めて。で、楽しいよって聞いたんで、そこを紹介してもらって、最初そこで働いてたんですけど、そのお店の雰囲気にあわないなって思って、そこはすぐやめちゃったんですけど。お客さんと話したりするのはすごく楽しかったんで、また働きたいなって思っていて、辞めた後に行ったAカフェの雰囲気が良くて、働きたいなって（R：しっかりした話や）ふふふふ。〔それ以前に、どんなイメージといいますか、ご存知でしたか、メイド喫茶の存在は〕はい、知ってました。〔いつごろから、メイド喫茶があることを知ってました？〕いつごろ、なんやろ、アニメとか、ボーカロイドとかの話ができる友だちがメイド喫茶を知ってたので、いっちゃん最初は、連れて行ってもらうかっこうでした。

3 オタク文化との接点

—お二人とも、関西出身ですかね？（二人ともうなづく）日本橋なんかは、たとえばAカフェで働くようになる前でも、よく来られてましたか？

R：オタロードとかも、全然わかんなかったです。難波より梅田の方が詳しいです。でも、梅田には、あんまり、メイド喫茶ってないので。

—Pさんは？

P：わたし、ちゃんと日本橋歩くようになったのは、そういう、メイド喫茶とか知り始めてからだったんですけど、その前に、兄がゲームとかしてたので、小学校の頃にゲーム買いについてきたりとかはありました。〔なるほど、お兄さんの影響も割とありますか〕あー、私あんまりゲームしないので、影響受けている感じはないんですけども〔あんまり、ゲームはされない？〕はい。

——つづいて、お二人の…お二人ともあれですか、マンガとかアニメとかはみたりされますか？

R：私は [いつごろ] アニメ？ [いつごろ、その、オタク文化に接触したか] わたし、『ONE PIECE』がめっちゃ好きで。 [それは、いつの頃から] 『ONE PIECE』は、もう、どれくらいの付き合いですかね。でも、高校生くらいです。もう、ルフィという、なんていうんですか、あの、アツい人望にあこがれて、海賊王になりたいと思った時期がありましたね、高校の時。 [中二病ですね] (P：いわゆる) (一同 笑い) でも、ちょっと「なれない」っていうことに気付いたんで。

——中学の時はどうでしょう？

R：中学の時？ [マンガとか、アニメとか] 中学のとき、は、そんなに、ですね。バスケばかりしてたんで [あー、なるほど。バスケ部ではそんな話は] ないです、ないです、はい。 [高校の時は、部活は?] 高校の時もバスケしてたんですけど、でももう、夜更かしができる歳になったので、夜のアニメとか見つつ、かわいい女の子がいっぱいだー、と思って。 [バスケ部でもそういう話をして盛り上がったり] あ、もう、高校もそんなのいいですね。一人で盛り上がってました (笑い) [じゃあ、隠していた感じですか] うーん、もう、オープンでしたね。この女の子かわいくないみたいな感じでいっても、あまり、「あー、う、うん」みたいな感じ (笑い)。

——当時の深夜アニメで印象に残っているアニメはなんでしょう？

R：なんやろ、なんやろ、当時の、印象に残っているアニメ、なんやろ [高校時代の] 高校時代か…『ドラえもん』とか (P：え、深夜アニメ？ (笑い)) 深夜アニメじゃないな (笑い) [そうですね (笑い) かわいいなと絵が思った] そう、それは最近思ったのは、最近でいいですか [いいですよ] 最近はその『ギルティクラウン』 [絵、かわいいですね] が、かわいいですね。あと『Fate』とか『イカ娘』とか、かな。

——高校の時は『ONE PIECE』以外、マンガ、アニメはみられてましたか。

R：『ONE PIECE』と、『銀魂』 [はあはあ、ジャンプですね] ジャンプ系ですね。 [ジャンプのマンガを見ましたあと、いわゆるBLものとかは] あー、読んだことないんですよ。同人というのもわからなくて、意味が。

——ということは、高校を出られてからは、マンガ、アニメは見ていないですか。

R：高校出られてからはですね、なんかね、かわいい女の子が出て、あー、なんやったっけな。高校出られてから、はい (笑い) 。 [高校出てからは、しばらくは、Aカフェ以外の仕事は、アルバイトとかされてたんですか] あのー、正社員してて、梅田の方で、一年半ぐらい働いていました。でも、店長とそりがあわなくて、辞めたんですけど。それを辞めて、いろいろ居酒屋とかバイトしつつ、で、Aカフェにたどり着いたみたいな [なるほど] 半生で (笑い) 。

——Rさんはどれくらいですか、Aカフェに来られて。

R：Aカフェは、半年です。 [もう少し長いような] 最初毎日入ってたんで [あー、なるほど、半年か、もうちょっと古いイメージがね、あったんですけど] (笑い) あー、でも、私、フリーターやからいっぱい入れるので、最初から5連勤だったんです [すごい、いきなりですか?] しかもイベントもあったし。 [最初のイベントは何ですか?] 学生服の、学生イベントですね。あれでした。もうどうしたらいいのかわからなくて。 [コスプレするのはお好きですか] コスプレ [それまで全然体験ないですか] ないですね。でも、未だにしたことはなくて、してみたいのはあります。 [Aカフェの中でするのはどうでしょう?] あ、全然もう、構わない (P：構わない (笑い)) 。 [恥ずかしくない?] 恥ずかしくない (笑い) 。この間の、あのー、男装しましたけど [ああー、やっとなりましたね] 学ラン着ただけだけど (笑い) [男装はお好きですか?] 男装してみたい [一

番、ノリノリに見えましたけど) (P:でも、学ランってあこがれますよね) 『イケメンパラダイス』をみて、わ、ちょっと私もどうせならやってみようと思って。

—では、つづいて、Pさんのオタク半生をお願いします。

P:はい、私、ずっと『ポケモン』が好きなんで〔言っておられましたね〕たぶん、もう、普通に小っちゃい頃見てたアニメからそのままやと思います。〔小っちゃい頃見てたアニメとは〕『ポケモン』とか、7時台にやる『ドラえもん』とか (R:特撮とか?) 特撮は見てないですね。(R:朝もやってるから、あれ)。あ、でも『おジャ魔女ドレミ』とかは (R:あ、めっちゃわかる) 〔『セーラーMoon』は?〕『セーラーMoon』は、でも、それより昔やと思います。『おジャ魔女』よりも前やから、たぶん記憶にないけど、見てましたね。

—小学生とかはどんな感じでしたか?

P:『ポケモン』を見て…どういふ感じ…〔それ以外のマンガやアニメ〕あの一、高学年になった時に、『NARUTO』のアニメを観てからむっちゃハマって、単行本買い始めました。たぶん、マンガで一番最初は、『NARUTO』かな。その前に『ちゃお』とか読んでました。〔『ちゃお』って何が載っているんですか?〕何が載っている? (R:目がおっきい女の子とか(笑い)) そう、目、おっきい。〔小学生向けの少女マンガ〕あ一、そうですね。(R:うち、『りぼん』派やったわ) 『りぼん』借りて読んでました。(R:種村有菜さん、好きやったわ) 〔当時、『りぼん』では何が有名でしたか〕ギャルのやつですか? (R:あの一『GALS!』?とか『神風怪盗ジャンヌ』とか) 〔『怪盗ジャンヌ』、アニメ化してましたかね?〕 (R:はい、してましたしてました!) 「ドクターリン」(池田註:『Dr.リンにきいてみて!』) ってどっちでしたっけ? (R:あれ、でも、『りぼん』かな? 『なかよし』だったっけ?) 〔やっぱり、基本的には、少女マンガを読まれるんですね。ちっちゃいときっていふのは〕いまはないですね、あまり。昔はちゃんと読んでました。

—中学生に上がるとどんな感じでしょうか。

P:中学生、1、2年は若干離れてましたね。なんかちょっとアニメとか見るの恥ずかしいっていうのがあって (R:思春期ね!) 見てないアピールして、そんなときだけ、「ポケモン」離れました。でも、地元の仲いい子らも、意外とポケモンの話のれるから、こいつら観てるんやって思って、じゃあ私もええかなって思って (R(笑い)) 戻りましたね。男の子とかもシールとかこうてて、くれたりしたんで、こいつら結構受け入れてくれる (R:パンの? やつ?) パンじゃなくて、シールだけの〔中学生の時ということですね〕中学校の時です〔ポケモン以外は?〕ポケモン以外は、『NARUTO』と〔『NARUTO』は続いているんですね〕、『NARUTO』はずっと単行本読んでますね。あと、兄が、そんなとき兄が高校生だったんで、友達から借りてきた『BLEACH』とか『鋼錬』(池田註:『鋼の錬金術師』)とか、『DEATH NOTE』も読んでました。

—基本、ジャンプマンガ系ですか。BL系とかは、その時はまだ見なかったですか。

P:まだですね。〔高校に入ってからですか〕高校入ってから… (R:いつ目覚めたの?) 私ね(笑い)、もうね、これいふのめっちゃ恥ずかしいんですけども (R:言え言え言え) 三次元のBLから入ったんですよ(かなり照れた表情) (R:ほう) 小学校の頃からポルノグラフィティが好きやって、たぶんなんか、ファンサイトとかネットで見てたら、自然とたどり着くじゃないですか、BLとか小説とか。そういうので、中学の一瞬、ポルノのBL目覚めたけど、お母さんにバレそうになってやめて、そっから高校入って『銀魂』好きになって…からかな、またBL、ファンサイト調べていったら、またBLにたどり着いてどっぷりてきな。〔それは結構買われるんですか、同人誌は〕あ一、買いますね(笑い)、そこら辺で、K-Booksとか。〔コミケとか行きますか?〕あ、行ったことないです。〔やっぱ、『銀魂』…〕はい、でも、若干、『ヘタリア』の2次創作に目覚め始めて、100%でいうと、こういう感じ (R:結構や!) 〔なるほど、『銀魂』では、どんなキャラが、というかカップリ

ングはどれがお好きですか] 銀さんが攻めでの、土方受けです [銀士ですか?] 銀高も好きです (池田註: 『銀魂』のキャラクター・高杉晋助の「高」である)。

——ファンサイトをめぐっていて、出会ったんですね、BL とは。友達も同じように BL を見ていたのでしょうか。

P: 友達も [その当時の] 持ってますね、いっぱい、本。薄い本 (笑い) [高校の時の?] 高校の時の地元の友達、でも、うん、知らん間にそういう共通の趣味の友達、高校でもできてました。なんでやろ、きっかけ (R: あれちゃう? オーラちゃう?) オーラ? なんか、意外といるんですよ。意外と多いと思います。 [共学ですよ、おふたりとも] 共学です (R: 共学です) [その手の話を、高校でわーってやってて、違う人たちの視線は特に気にならなかったですか] うーん [薄い本広げて、わーってやってて] それはいいですね。でも、高校からの男の子の友達で、普通に「銀士が」って言ってる子はいます [腐男子?] たぶん、ひいてるとは思いますが、でも。 [あ、ひいてはいる?] でも、その子も、オタク系の趣味はあるんで [じゃあ、あんまり隠した感じでもない] うーん、隠してはいいですね [中高って思春期だから、隠す人隠さない人いろいろいらっしやると思いますけど] 中学の時は、ホンマに、BL 系は言ってなかったです。言うまでの知識もなかった気がします。

——大学に入られてからはどうでしょうか。

P: 隠してはいいです。 [やっぱり同じような趣味の方たち?] いま一番仲いい子がやっぱりそういう感じで、寄ってくるんですかね、類は友を呼ぶ的な感じなんですかね。 (R: わかるのかなー) ふふっ [サークルとかはされてないですか] あ、してないです。 [なるほど、そういう系のサークルもいろいろあるかと思うのですが] [ゴスロリとか、ロリータの格好とかは] あたし着ないですけど、着てる子みたらかわいいなって思います。

4 A カフェで働く楽しさ

——A カフェは、オタクな人も多いと思いますが、その中に入っていくのがですか。

R: 新しい話とか、私が知らなかった話とかを、あつそういう話もあるんやみたいな感じに思うのもあるし、アニメとかどれが面白いですかって聞いたら「これが面白いよ」って教えてもらって、それを見て、そんなの楽しいです。 [お客さんもそういう人多いし、メイドさんもそういう人多いし、そういう環境だと思います。ただ、それが苦になったりすると大変でしょうけれども、そういうことないですか。] ない、ないです。 [メイドさん同士で遊びに行かれたりもされるんですか?] 遊びには行ってないかも。なんか、ミーティングとかで、他のメイド喫茶行って、ミーティングとかしますけど。 [そうなんですか] メイドはメイド同士意見出し合ってます。 [みんな結構、意見を言うんですか] あ、はい、いいですね。 [それはすごいですね] バンバン、バンバン。 [お互い、遠慮なくいう感じ?] いいですね。 [基本的には、イベントとか、みなさんで決められるんですか?] イベント? あーでも、そうですね。結構、バイト終わった後にみんな残ってみたいな。店長とオーナーと、次どんなんしようとか。

——イベントを考えて、実行するのは好きですか?

R: はい、好きです。面白い。 [いままで、どんなイベントが良かったですか] 私ですか? 甘味喫茶とか楽しかったですね。 [甘味喫茶? ああ、あの和風のやつですかね] あれは、ちゃんとしっかりして団子とかも出だし、凝ってたなと思いますけど。あ、でも、ハロウィンの飾りつけもな? (P: 可愛かったですね) でも、ホラーイベントですかね。 [楽しかったですか] 楽しかった。血糊とか。帰りがちょっと困りましたが (P (笑い))。 [客は一瞬どきっとしますけどね] 誰得や、みたいな。

——P さんは、働き始めてどれくらいになりますか?

P: 私は今日で一ヶ月です。 [あ、ちょうど一ヶ月ですか。 どうですか、働いてみて] 楽しいです。 [どういうところが楽しいですか] みなさん、スタッフとか中の人の方が優しいので、そういうストレスなくできている感じで楽しいです。 (R: よかったよかった)

—A カフェの中でも、仲間たちと、マンガやアニメの話はされるわけですか？

P: はい。 [知っているのとやりやすいという感じでしょうか] そうですね、結構お客さんでもアニメの話とか多いです。 あたし結構、狭く深くなんで、あんま最近のアニメとか見てないんで、あ、やっぱ見た方が会話は乗れるかなって感じがしました。

5 A カフェで得たもの

—だいぶ、詳しくなったんじゃないですか、アニメに？

R: はい、教えてもらって見たりしたんで。

—そういう風になっていく自分はどうですか？

R: や、もう全然進化しているなと (笑い)。(P (笑い)) [ピカチュウからライチュウくらいに?] そうそう、ライチュウくらいに (笑い) (P: テンテンテンテン (池田註: おそらくポケモンの音楽)) もう止められへん (P: B ボタン (笑い)) もうホンマちょっと (笑い) 、なんなの (笑い) 、笑いすぎですよ〜 (笑い) (P: はい (笑い))

—P さんがA カフェで働くようになって変わったことはありますか。

P: 変わったことですか。私、もともと、あんま、社交的じゃないんで。 うん、どうなんやろ、しゃべる、うん、どうなんでしょうね? (R: え?) [先輩の目からみて、いかがですか?] (R: や、あ、でも社交的じゃない?) じゃないです。(R: 絶対嘘!) でも、超人見知りですよ。(R: だって最初から「へーっ」とかやとったもん (笑い)) やってないですよ (笑い) (R: やってたよ (笑い)) P: やってないですよ (笑い) (R: 「うわー」とかやりましたからね、社交的だと思う。)

—社交的ではないと思われるのは、どうしてですか？

P: 大学とかでも、あんま、席が隣になっても話しかけたりとかできないんで、お店の時の方がお客様に話しかけてるんで、そういうのを治せたらいいなと。 活かしたら、仕事以外の大学とかで活かしたらいいなって、いうのも、志望、なんか、メイド喫茶の。 [コミュニケーション能力ということでしょうか] あー、そうですね。 コミュ障なんで。(R: コミュ力ね) コミュ力ね、大事ですね (笑い)

—R さんはもうぜんぜんそういうのは苦にならないタイプですか？人と話したりとか。

R: うーん、そうですね。人と話すことはすごい好きなんで、前の仕事が、だから、しゃべりすぎて (笑い) (P (笑い)) ほんま、いつみてもしゃべってるなあとかなんか言われたんで、だから、何ていうんですかね、事務とかは絶対あわない (笑い) [あー、しゃべってないと気が済まない (笑い)] 口なくなるんちゃうか、みたいな (一同 笑い) 。事務とかは絶対ちょっと向いてないと思うし、器用な事とかできないし、パソコンとかも、ちと、わからないし。 [しゃべりすぎていうのは、いつ頃自覚されたんですか? 小、中、高...] 幼稚園から! (一同 笑い) もう、すっごいうざかったと思う。(でも、それが活かせる場所にたどり着いて) そうですね、今はホント楽しいですね (P: すごいですね)

—P さんは、大学にもお友達がいる、A カフェでも知り合いができたわけですが、何か違いを感じていますか。

P:でも、あたし、一番年下なんで、先輩って感じですね。あんまり、部活とかサークルとか入ってなかったんで、先輩とかいう関係があんまなかったんで、うれしいです。〔学ぶこともありますか〕ありますね。やっぱ、年上の余裕があります。(R:やっぱり?) やっぱり(笑い) ありますよ(R:ないわー(笑い))

6 その他

(1) 接客について

—お二人は、接客では、どういうところに気をつけてらっしゃるわけですか?

R:もう、なんですか、ご主人様が興味ある話、たとえばご主人様が好きなアニメとかを、もし私も見てたらその話をしてみたりとか、もし知らなかったら、どんななんですかって、ご主人様が興味ある話をするみたいな。〔そういうのは、店長やオーナーから指導があるんですか。こんな風にしたらというのは〕ない、ないですね。なるべく、全部のテーブルを回るようにはしますけど。

P:ちょっと仕事慣れてきて若干余裕が出てきたので、顔を覚えようとは思ってます。〔覚えられますか、顔は?〕何回かお会いして顔を覚えられたり、会話に印象が残ってたりしたら、覚えられます。

—メイド喫茶の、勤める前のイメージと勤め始めた後のイメージと、違ったことってありますか?

R:やっぱり女の子ばかりやから上下関係とかドロドロしてると思ったんですよ。派閥みたいなのがあって、こっち派とかこっち派とかあると思ったんですけど、でも全然みんな仲良くて。あと、萌え萌えジャンケンとかもないし(P:裏声使ったり)。それぞれキャラがあるのかな、と思ってたんですよ。でも、そんなものなくて、みんな素な感じやし楽しいですね。変わらず。〔作ったようなキャラではないですよ、Aカフェのメイドさんたちは〕みんな、素ですよ(R・P:(笑い)) めっちゃ、叫んだりもするし。

P:お客として行っていると、普通に楽しいですけども、やっぱり普通のカフェとしての接客ができていないとダメやなあって、働いてから思います。〔接客の難しさっていうのは、感じますか〕若干ミスしても、お客さんは優しいから許してもらえて面もあるんですけども、やっぱり普通のカフェと変わらないですね。普通のカフェとしての接客プラスみたいな感じかな(R:プラスα)。

—たとえばRさんは、他の接客の仕事もされていたわけですけども、メイド喫茶なりの難しさっていうのもあると思うんですけども、そういうのは何かありますか。

R:ほんとに、入ったころは、話しかけるっていうのがゼンゼン無理で。なんか、なんですかね、迷惑かなとか〔うんうん〕思うんですよ。いま話しかけて大丈夫かな、みたいな感じで思ったり。本とか読んでらっしゃたら、これいま行かれへんなどと思ってあきらめたり。でも、今は普通に「何読んでるんですかー」(R・P:(笑い))。〔本読んでいる人も待ってはいるんですよ、結局〕だから、そこが最初分からなくて、難しかったです。〔こっちも照れがあるので〕待ってるってことやね。〔そうですね、常にみなさん待っておられると思います〕そうじゃないと来ないですよ(笑)。〔今はもう別にそういうのも?〕もう別に話しかけんなオーラでとったとしても行きます(笑)(P:行きます?(笑))〔それすごいな〕でも、そんなオーラ出ている人、いるかな。〔基本的にいないんじゃないですか?〕いない〔みんなこう、楽しい体験を持って帰ろうと思って〕さすがに、ご飯食べているときはいかないですけど。

(2) チェキやブログについて

—ただ、メイド喫茶で特殊だなあ思うのは、チェキの注文と入ったりするじゃないですか?面倒臭くないですか?給仕をしている間に撮らないといけないでしょ?

R:いや、うれしいですね!〔なるほど、頼まれるとうれしい〕うん、うれしいです。

—あれは、他の飲食業にはないですよ。そういうのに、抵抗はなかったですか？

R：最初撮ってくれるってなったときに、ツーショットだったんですよ、初めてのチェキが。その時はもうホンマに、この人は覚えた！と思って。次からはホンマにうれしくて。最初のチェキはうれしいですね。

P：抵抗はなかったですけど、めちゃ写り悪いとかやったら、これ出すんや〜（笑い）って思いました（R：へへ。もうちょっと、これこうしとけばよかったみたい）（一同 笑い）

—結構、ブログにも載ったりしますが、「顔出し」とか、そういうのは大丈夫ですか？

R：全然、大丈夫です。

P：大丈夫です。〔Pさんはまだ、載ってないかな？〕何回かは、あります。

R：でも、変顔しかしらないです。〔なんか書いてありましたね〕

P：でも、チェキでも変顔してますね。お任せって言われたら、変顔します（笑い）

R：可愛くって言われたら、ちゃんと可愛くするよね。

P：リクエストが出たら、がんばりますよ。

—文章を書くのは、任意と言いますか、書きたい人が書けばいいという感じなんですか？

R：いや、もう全員書くようには。〔あ、入った人は全員書く？〕うん。

P：あたし、まだ研修中なんで書かなくていいんですけど、研修とれたら書かないといけないみたいです。

—結構、悩むんじゃないですか、何を書くかで？

R：あー、そうですね。みんな、なかなか面白いこと書いているから（P：面白いですよ（笑い））〔負けたらいかんと思って〕そう、負けたらいかんと思って。ホンマにしんどいときがあるんですよ、寝ぼけて。そのときはもう、「今日は何何さんとお給仕しました。写メはないです」（一同 笑い）で終わるときもありますけど、なるべく書くようにはしています。

—当然、写メはいれないといけないのですか？

R：あ、なんか、入れるのが…（P：見る側としては、あった方が）楽しいですよ。

—Pさんは、ブログはどうですか？自分が書く番になったりしたら。

P：なんか、求められてそうで怖いですよ（笑い）。いや、なんか、自分の名前が出てきたらうれしいです。

—結構、意識して、入った人全員の名前に触れるようにしているんですか？

R：あの、元気があるときは（笑い）「今日は、何何ちゃんがツインテールだったー」とか。ほか、写ってないとき、写メにその子が、こういう格好していたとか、書いて伝えるようにはしますけど。

（3）ファッションについて

—お二人はファッション雑誌とかはご覧になりますか？

P：はい〔たとえばどんな？ Pさん、髪の毛が〕（R：おしゃれ！）〔末端だけどっぷり〕いやーん〔毛先だけ変わってるみたい。どんな系の雑誌をみてらっしゃるんですか〕めちゃ、普通のを読みますよ。『関西ガールズスタイル』とか。〔あー、ストリート系ですか？〕そうですね。ギャルではないです。〔『ViVi』とかは読まれないですか？〕『ViVi』も若干ギャルより何で、そっちよりは『PS』とかの方が。

—ファッションへの関心と言うのは、前々から？

P: やっぱり、大学いってたら、毎日私服なんで、やっぱ、気にせなやっつてられんなって感じです。(R: いつ、どこで、何があるかわからん) そーなんですよ、ね。〔いつどこで何があるんですか(笑い)〕 いつイケメンとしゃべる機会があるか(笑い) [まあ、たしかに] (R: いつ、どこで、何があるかわからん) [小中高ではどうですか、おしゃれへの関心は] うーん、なんか、ダサかったけど、一応気にはしてました。ふふ。〔どんな雑誌とか誰を参考にされたとか〕誰を参考とかじゃないですけど、自分で買いに行ったりはしてました。〔当時はやっていたモデルさんとかタレントさんとか〕そういうのはない〔ぜんぜんない?自分なりというヤツですかね〕なんか、そこら辺の人、やからダサいんかったんかも。今もですけど。

—Rさんはいかがですか?

R: 私は、私服のセンスはホンマになくなって。〔あ、そうなんですか〕ホンマに、もうなんか、ここに働く前ですけど、ダサすぎて(笑い)。プリクラとか撮った時に、ちょっと前に立ってって言われて、一人で撮らされるんですよ(一同 笑い)。一人で撮らされて、なんか、この格好おかしいやろみたいな落書きを書かされて(笑い)、くれるんですけど、あ、ありがとうございますとかいいながら、全然うれしくなくて。で、服装変えてみようと思って、まずはマネキンが着ている服を全部買ってみよう〔わかります、ワンセットね〕とりあえず、これ全部下さいって〔格好いいじゃないですか〕。ちゃんと値段見ますよ、パッと見て、すぐ来るじゃないですか、店員さんって、「これ、すごいいいでしょう」とか「お客様に似合っていると思うんですよ」とか、え、そうですかって(笑い) 買っちゃうんです。(P: 断れないですよ) 断れない。うまいね。(P: え、ええーってなる) マネキン以外の組み合わせとかになったら難しく、今日、この部分ないから着られへんわ(笑い)。(P: わかります!意外と小物が大事なことに最近気づいた(笑い)) 難しいよね、ファッションは。〔じゃあ、あまりファッションには関心を持たれなかった?〕雑誌も読まないですよ。

P: 結構、Aカフェの人、オシャレな人が多いんで〔あ、そうですか〕、いつもよりちゃんとしようと(一同 笑い)。更衣室に誰もいないときとかあるじゃないですか。それのときより、たとえば5時に一緒に入る人がいるとなると、変じゃないかなって気をつかいます。〔なるほど、なるほど〕結構若い人、おんなじ年くらいの人結構多いじゃないですか。(R: みんなおしゃれやんねー。) ね!おしゃれです。

おわりに

以上、2名のメイドのインタビュー内容を紹介してきた。インタビューをしてみて、2人とも、アニメやマンガなどのいわゆる「オタクっぽい」趣味を通した人間関係をととても楽しんでいる印象を受けた。それは、前回も書いたように、「ご主人さま/お嬢様」とのコミュニケーションでもあるし、メイド同士のコミュニケーションでもある。他のメイド喫茶はわからないが、少なくともAカフェは、オタク知識を活かした社交の場として、機能しているようである。

本稿は、メイド喫茶で働くメイドたちの「現在」を記録することを目指している。メイド喫茶という場所で、どのような女性たちが、どのような動機から、何を考えて働いているのか。そこには、どのような「楽しさ」があるのか。これらのことを、しっかりと書き留めておきたい。そのような意図のもとに、書かれている。

メイド喫茶は、誤解されやすい。たとえば、2012年9月に、大阪市のメイド喫茶の経営者が「メイド喫茶で中学3年の少女3人を雇った」として逮捕される事件が起きている(2012.09.02 毎日新聞・大阪朝刊)。その後、「大阪・日本橋の電気街『でんでんタウン』周辺で、風俗店まがいの接客をするメイド喫茶が問題化している」との報道もあった(2012.09.26 毎日新聞・大阪朝刊)。こうした報道が続けば、世間一般のメイド喫茶のイメージも悪くなるだろう。また、「風俗店」と勘違いされる可能性も高まる。

そうしたネガティブなイメージや誤解を払しょくするためにも、やはり、しっかりとメイド喫茶の実態を報告しておく必要がある。本報告は、単なる記録にとどまらず、メイド喫茶への誤解を解き、かつその実態を知ってもらおうという社会的な意義もあると、筆者は考えている(本当にささやかではあるが)。

さて、実は、2013年9月に、あと3名のメイドにインタビューをすることができた。今回は、この3名のインタビューを紹介する予定である。

インタビューのために、現店長であるGさん、オーナーであるDさんには、多大なご配慮をいただいた。また、2名のメイドさんたちも、インタビューに快く応じていただいた。ここで感謝の意を表しておきたい。

【参考文献】

池田太臣、2012、「オタク女子の楽園～メイドグラフィティ in 日本橋（1）」『女子学研究2』 76-90